

# カラスの好みの基準は何か

長岡技術科学大学 4年 白木大翔

## はじめに

日本に生息している鳥類の中でもカラス類は特に人間の生活と密接に関わっている。特に都市部では留鳥であるハシブトガラス (*Corvus macrorhynchos*) を至る所で観察することができる。一般的には極端な雑食性であると言われており、虫や木の実、動物の肉等あらゆるものを食べている。石鹸を盗み、食べるといったことも観察されている。一見、食べられるものなら何でも食べるイメージを持たれるハシブトガラスであるが、脂質を好む一方、野菜等は積極的に食べないといったことが報告されている。では、ハシブトガラスはどのような特性の食べ物を好むのだろうか。新潟県では、カラス類による果物などの農業被害が多いことが知られている。被害がある果物等の中でも被害額の多いものと少ないものがあるため、その要因として好みに関係していると推測される。そこで本研究ではハシブトガラスは果物等を食べる際、何を基準に選択をしているのかを明らかにし、カラス類による農業被害のメカニズムを把握することを目的とした。



## 実験方法

来年度捕獲許可を取得して新潟県長岡市内檻罠でハシブトガラスを捕獲する。飼育は屋外ケージ(4m×8m×3m)にて行う。飼育数は捕獲数によって変動するが、20-30個体程度を予定している。飼育時にはドッグフードを与え、実験に使う果物等は与えない。実験は夏から秋にかけて行う。

### 事前準備

新潟県での農業被害報告が多くある果物等(スイカ、ナシ、モモ等)を数種類用意する。そのほかに報告があまりない果物(ブドウ等)も用意する。

実験に用いる果物の水分量や硬度を測定する。

## 実験

実験に使用する個体を飼育ケージから実験ケージに移す。実験は1個体ずつ、もしくは複数個体で行う。

実験に使用する果物等を一定量ずつ別々の容器で与える。与えた果物等の重量を事前に測定しておく。

実験中、ハシブトガラスの採食行動を観察するためにビデオカメラで撮影を行う。

一定時間経過後、与えた果物等の重量を再度測定し、採食量を算出する。事前に予備実験を行い、方法論を確立しておく。

別な個体に入れ替え、実験を繰り返す（同じ個体は2度使わない予定）。



## 解析方法

事前に測定した水分量、硬度、文部科学省の食品成分データベースから得た成分含有量、特に糖分量等をもとにして、採食量と種類について統計処理を行い、選択の際に重要になっている要素を見つける。

## どのような結果が得られるか

果物の場合、ハシブトガラスはどのような要素で餌の選択を行っているのかを明確にし、採餌戦略の理解につなげる。この研究により農作物の被害のメカニズムの解明に寄与できると考える。将来的にはハシブトガラスによる農業被害の対策等に役に立てたいと考える。

## 支援金の使用用途

果実硬度計等の計測機器の購入やハシブトガラスの飼育にかかる費用等に充てさせていただきます。